

「東京標準時間」導入プラン

～国家戦略である標準時間を2時間早め
失われた時間利益を取り戻す～

東京を、世界で最初に関くマーケットへ！

心のデフレを取り除く「災後社会」の処方箋

平成25年5月22日

東京都知事 猪瀬直樹

なぜ今、標準時間変更が必要か？

□ 「災後社会」の処方箋

朝の明るい時間に活動し、今まで無駄にしていた日照時間を有効活用することで消費電力を抑制できる。東日本大震災で福島からの電力900万kwが失われた「災後社会」において、究極の自然エネルギーである太陽の光を最大限に活用し、消費電力を抑制する標準時間を二時間早める「東京時間」の導入は極めて有効な戦略である。

□ 「心のデフレ」を取り除く

明るい時間に仕事を終えて、スポーツや映画鑑賞をしたり買い物や食事に出かける時間ができ、アフターファイブ需要が生じる。また夕食を共にするなど家族団らんの時間も生まれる。子供は父親と過ごす時間をもつことで日本社会が高度成長期に失った家庭における父性の復権も見込める。余暇の充実する新たなライフスタイルでは縮こまった「心のデフレ」も取り除かれる。

□ 世界の富を呼び込み復興を後押し

日本市場がアジアの中核となることで、金融を始めとするグローバル企業のアジア拠点が集まり世界から資金流入が起こる。東京に世界の富が呼び込まれることで、官民双方から復興支援に充てられる資金の規模も増える。

標準時変更の経緯

- 明治19年の「本初子午線経度計算方及標準時ノ件」の勅令で東経135度を日本の標準時とした。
- それ以降一度も見直されていない。
- 標準時の設定が重要な国家戦略という認識なく、事務的に国土の真中を標準時と決めたままになっている。
- 他方、アジア諸外国では明確な国家戦略としてより早い標準時を使用している国が複数存在する。
- 標準時を変更することは、国際戦略上、極めて有効な手段である。

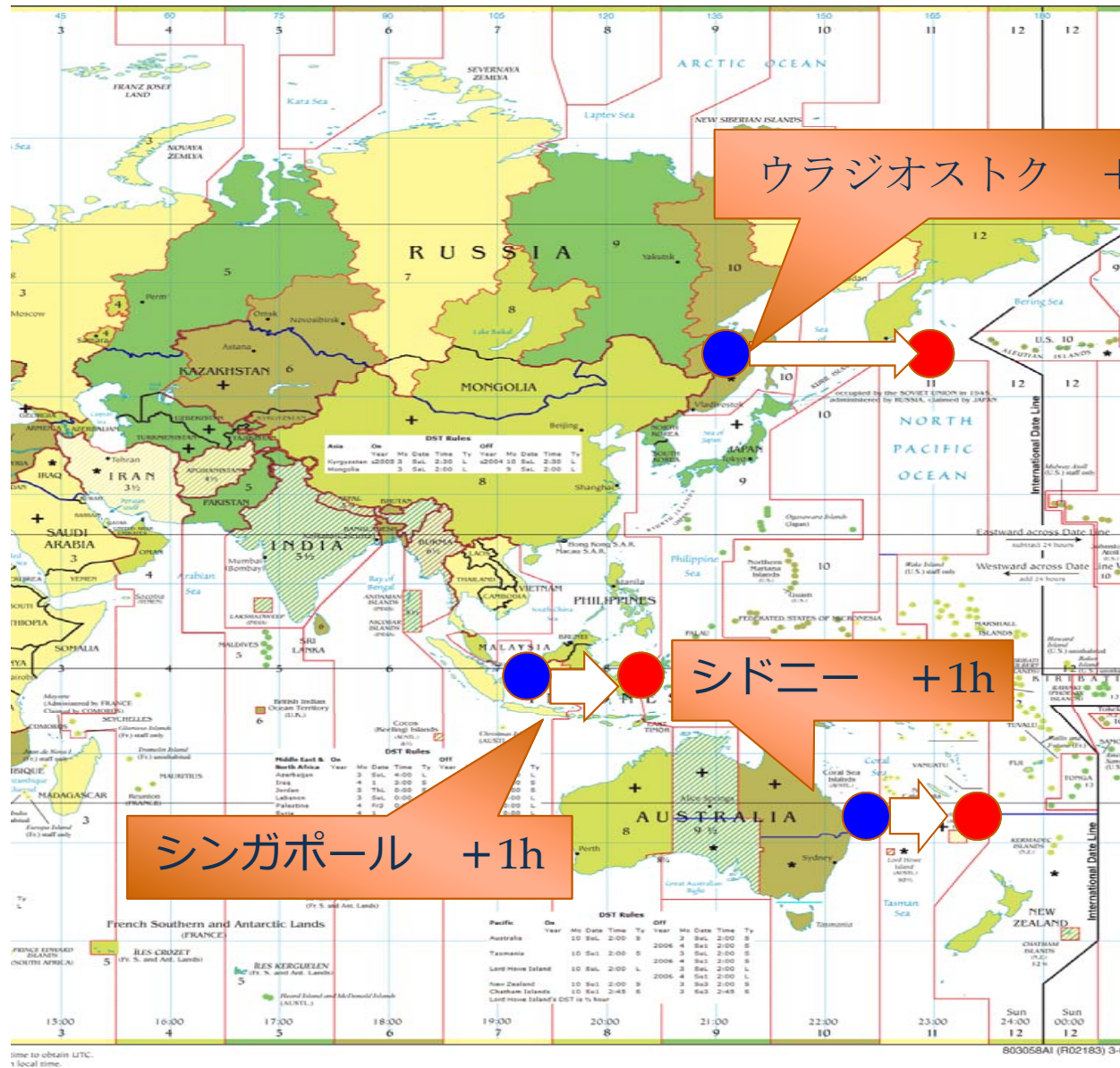
アジアの都市の標準時(1)

日本は標準時間を一度も変えていない。

一方、シドニー、シンガポールは1時間、同経度のウラジオストクは2時間早い時間を使用している。

	東経	経度から見た 東京との時差	人為的に早めた 時差	現在の東京との 時差
ウラジオストク	131°	0	+2	+2
シドニー	151°	+1	+1(サマータイム)	+1
シンガポール	103°	-2	+1	-1
香港	115°	-1	0	-1
東京	139°			

アジアの都市の標準時(2)



各国の標準時変更のケーススタディ

- ▣ ウラジオストク (標準時を2時間早める)
 - ▣ 1930年、ソ連全体で標準時間を1時間早める
 - ▣ 2011年、夏期に実施されていたサマータイム(+1h)を、通年の標準時とすることにより、上記2要因により、UTC+9からUTC+11に。
- ▣ シンガポール (標準時を1時間早める)
 - ▣ 1982年、前年にマレーシアが標準時をUTC+8とした事を受け、シンガポールもUTC+7.5からUTC+8に変更。
- ▣ シドニー (サマータイムで1時間早める)
 - ▣ 1971年、ニューサウスウェールズ州がサマータイムを実施。
 - ▣ 夏期はUTC+10からUTC+11に。

※ UTC...協定世界時、世界各地の標準時の基準
イギリスのロンドンがUTC+0

各国の標準時変更のケーススタディ(2)

世界の標準時は経度通りではない。
人為的にずらして構成されている。



標準時を2時間早める狙い

①主要都市の中で、最も早く始まる市場・東京を目指す。

標準時を2時間早めると、海外から東京市場をカバーすることが困難になり東京回帰が起こる。

1. ②東京市場の優位性確保により、まずは海外に逃げた国際金融機関の東京拠点機能を呼び戻し再拡充する。

2. ③東京拠点の拡充により、国際金融機関のアジア拠点を東京に移す動きを促進する狙いがある。

海外に流出した東京拠点機能を呼び戻す

1. 日本国債や日本株といった日本の金融商品の取引をする業務は本来、東京拠点で行われるべきものである。
2. ところが東京市場の優位性を維持できなかったため、そうした日本関連業務をシンガポールや香港に移して東京拠点を縮小してしまった国際金融機関が近年増加。
3. 「東京時間」導入により、まずはシンガポールや香港から日本関連部局を呼び戻し縮小した東京拠点機能を再拡充する効果が期待できる。
4. 東京拠点の再拡充は、アジア拠点機能そのものを将来的に東京に移す流れにつながる。「東京時間」導入はそのための最初の一歩である。

標準時を2時間早めることの意味(1)

- 香港、シンガポールから、朝の東京市場をカバーすることができなくなる。
- →東京にオフィスを構えざるを得なくなる。

標準時の2時間変更後の状況

東京市場AM9:00～AM12:00



香港、シンガポール市場AM6:00～AM9:00

市場が活性化していない時間帯であり、午前中の東京市場をカバーできない。

標準時を2時間早めることの意味(2)

- 早朝のヨーロッパでは、東京の午後のマーケットをカバーすることが困難になる。。

標準時の2時間変更後の状況

東京市場PM0:00～PM3:00



ヨーロッパ市場AM1:00～AM4:00

市場が活性化していない時間帯であり、午後の東京市場をカバーできない。

標準時を2時間早めることの意味(3)

- ❑ 結果的に、世界は東京市場を無視できない。
- ❑ 世界市場を東京、ロンドン、NYで8時間ずつ24時間カバーできるような体制にすることが狙い。



2時間早めた際の日の出日の入り時間

- 2012/6/21(夏至 日照時間最も長い)
- 日出 AM 4:25 日没 PM 7:00 → 日出 AM 6:25 日没 PM 9:00

東京(標準時変更後)	シンガポール(-3)	ロンドン(-11)
AM 6:25(日の出時)	AM 3:25(深夜)	PM 7:25 (日没時)
PM 9:00 (日没時)	PM 6:00(日没前)	AM 10:00(日中)

- 2012/12/21(冬至 日照時間最も短い)
- 日出 AM 6:46 日没 PM 4:33 → 日出 AM 8:46 日没 PM 6:33

東京(標準時変更後)	シンガポール(-3)	ロンドン(-11)
AM 8:46(日の出時)	AM 5:46(日の出前)	PM 9:46 (夜間)
PM 6:33 (日没時)	PM 3:33 (日中)	AM 7:43 (朝方)

標準時を早めた際の影響 メリット

- 朝方の時間を有効活用することでエネルギー消費量の低減効果も見込まれる。災後社会の今こそ必要な変更であるといえる。
- サマータイムと違い、標準時変更は時計を合わせる作業が一度で済む。いきなり2時間の時間を進めるのが困難なら、1時間ずつ漸進的に変化させることも考える。
- 夕方以降も明るいので、アフターファイブ後も屋外のスポーツを楽しむことが出来る。オリンピックとの相乗効果も考えられる。